

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子潮見保育園
施設所在地	東京都江東区潮見1-28-8ベイフレール潮見2、3階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

廃材遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

普段から廃材で製作することを楽しんでいる姿があり、廃材コーナーを作り自由に製作を楽しめるように環境を設定している。子どもの主体性を大切にしていける保育を行っている為、廃材遊びを通して主体的に活動し、廃材の特性を理解したり、製作をする為の道具の使い方を身に付けて想像力や構成する力などを深めていきたいと考えテーマを設定した。

## 2. 活動スケジュール

6月～9月・廃材遊びへの関心を持つ。絵本の読み合い。

- ・廃材コーナーを見直し素材に分けて設置。

道具ワゴンの設置。

自由に制作を楽しめるようにワゴン、筆、絵の具、パレット、ボンド、クレヨン、色鉛筆、自由帳、油性ペン、等購入。

制作した物を乾かせるように制作棚の購入。

- ・自由製作
- ・見本を見てイメージを持ち製作
- ・素材の違いを発見して意見を出し合う。
- ・戸外活動で地域の施設へ行き、ゴミ、リサイクルについて関心を深める。
- ・色の付け方、技法を製作活動を通して身につける。

9月～11月・素材ごとに特徴を捉えながら制作を楽しみ、作った物で遊ぶ。

- ・イメージを形にする中で色に関心を持ち、自分で色を作ってみたり、色づけする技法を身につける。

- ・グループで協力して作った作品を発表し、友だちの頑張りを認め合う。

12月

- ・意見を出し合いクラスで一つのものを作ってみる。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・本棚にリサイクルや廃材で作れるものが載った絵本等を用意し、「やってみたい」「作ってみたい」という意欲を湧きたてられるように用意した。
- ・廃材コーナーの見直し。様々な素材を使って表現することを楽しめるように素材に分けて設置。
- ・道具を自分で選択して自由に制作できるように道具ワゴンの購入、設置。
- ・様々な技法や表現方法で廃材遊びを広げられるように筆、絵の具、ボンド、油性ペンなどの物品を購入。
- ・家庭にも呼びかけて廃材の収集。

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

#### ①環境づくり

- ・絵本を見て「これ作ってみたい」と廃材遊びが始まる。
- ・自由遊びの時間も廃材遊びをしたい子の姿が多く、自由な製作活動を通して想像力や表現力を育てるように廃材コーナー、道具ワゴンを設置する。
- ・自由に廃材で制作する中で思うように作れない姿が見られた。

#### ②素材の違いを見つける

- ・ビニール素材やプラスチックに水性ペンで描いたり、のりでくっつけようとするが思うように出来ず困っている姿が見られた。
- ・段ボール、紙素材、プラスチックなど素材の違いをクラスで意見を出し合いを見つける。また、素材に合った道具は何を使ったらいいか実践してみる。
- ・素材の違い、道具の用途を理解する。

#### ③地域の施設でリサイクルについて学ぶ。

- ・廃材遊びで片付けの際にまだ使えそうな素材を捨てようとする姿があった。保育者が「まだ使えそうだよ」と声を掛けると「これはゴミ?」「まだ使える?」と考える姿が見られた。
- ・地域の施設でゴミについて、生活の見直し等を実際に体験する。
- ・「ゴミじゃないね」と身近なゴミの分別やリサイクルへの関心を深める。
- ・ゴミについてクラスで話し合い、リサイクルできるもので作れるものをクラスで意見を出し合う。

#### ロボット

やおうちなどの意見があがる。

#### ④絵本からイメージしたものの制作

- ・作れるものでロボットの意見があり、絵本「ロボットカミイ」を読み合いする。読み合いした際に

#### みんなで

「作ってみたい」と意見があがる。

- ・3.4.5歳児で縦割りのグループを作りどんなロボットを作ってみたいか意見を出し合う。
- ・道具の使い方、アイデアを3歳児クラスの友だちにも教えながら協力して製作する。
- ・工夫点や頑張ったことなど完成したロボットを見せ合いながら発表し、頑張りを認め合う。

#### ⑤クラスで一つのを制作

- ・それぞれイメージしたものを形作れるようになり、クラスで作れるものを考える。
- ・絵本「100かいだてのいえ」を読み合いクラスで制作してみる。
- ・上に積み重ねていく際に倒れそうになると友だちに声を掛け、支えてもらいながら協力して作ったり、倒れない為の工夫を考え意見を出し合う。
- ・保育室に展示して発信。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・廃材遊びをしたいという声があがり、子どもが関心のあったおすしやさんを廃材で作りごっこ遊びへと展開する。始めはどのように組み合わせて作ればよいかイメージが持てずにいたが保育者が見本を作ってみると廃材の見た目から想像してイメージを持ち作り始めていた。制作の片付けをする際に使える素材を捨てようとする子の姿があり「まだ使えるだよ」と保育者が声を掛けるとゴミとまだ使える素材を分別して物を大切にしようとする姿が見られるようになった。

・身近な物も制作で使えることが分かりリサイクルに関心を持つ。地域の施設で戸外活動する中でゴミ問題やリサイクルできるゴミについて実際に見て体験して学ぶことができた。

・素材の特性や違いをクラスで意見を出し合い見つけることで素材によって適した道具があることを理解することができた。廃材コーナーを充実し、道具ワゴンを設置することで素材に合った道具を自由に選択しながらイメージしたものをより、製作できるようになった。

・絵本の読み合いの中でロボットを作りたいという意見があがり、3.4.5歳児の縦割りでグループを作りロボットを廃材で制作する。素材の違い、道具の用途など遊びの中で身につけたことを3歳児にも教えながら一緒に協力して作る中で異年齢児との関わりを深めることができた。また、完成した作品を発表することで達成感を得られたり、友だちの頑張りにも気が付く機会となった。

・クラスで一つのものを作る中で意見を出し合い、友だちの意見も受け入れたり友だちとの絆も深まった。素材の組み合わせによって作れるものも増えて探求心や創作意欲が深まってきている。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

廃材を用意して自由に製作する時間を設定すると何を作ればよいのかイメージが持てず箱は箱のまま使う、「分からないけどくっつけてみた」と作ったもので遊ぶという広がりが見られなかった。また、素材に合った道具が分からず思うように作れずに遊びが続かないこともあった。

しかし、すくわく活動で長期に活動を行っていく中で廃材の素材の特性や違いを理解してよりイメージしたものを作れるようになり、友だちと「〇〇つくってみよう」と製作してごっこ遊びに繋がり遊びが展開したり、「ガムテープの方がいいかもしれない」と素材に合った道具を考え、友だちに教えたりしながら工夫して制作してみたりと段々とイメージを膨らませて遊ぶ姿が見られるようになってきている。また、廃材遊びを通して身近なゴミのリサイクルへの関心にも繋がり、「まだ使えるよ」と捨てる前に考えてみたりと日々保育園で過ごす中で物を大切にするという気持ちも育むことができた。

ただ物を用意して遊びを設定するだけでは不十分な保育内容だと改めて認識することができ、イメージしたものを形作ることが難しいと感じる子の姿が多い4歳児な為、子どもの関心に寄り添ったテーマをクラスで決めてイメージを共有して作る楽しさを味わうことで創作意欲や想像力を育むことの大切さを理解した。今後も今、子どもが興味があること、経験したことを遊びに取り入れようとする姿等を汲み取り、廃材遊びを通して子どもの想像力や表現力を深められるような活動を設定していく。そして一人ひとりの工夫点や頑張った姿を認めていきながら作って遊ぶ楽しさやイメージした物を形作ることができた達成感を味わい、自信へと繋げたり個性を引き出していけるようにしていきたい。